

## 富山総合情報センターの基幹システムリニューアル

	2008年	2009年	2010年
会計システムの課題	リニューアルを検討	ITコーディネータの活用へ	リニューアルに成功
二重作業が発生し省力化に課題	ベンダーへの相談なども行うが、社内の合意が得られず頓挫	9月からITCにサポートを依頼。現状分析を行い、他社のシステム利用動向などの説明も受ける	RFP(提案依頼書)を発行し複数ベンダーの提案を検討
手書き伝票を用いることによる正確性の課題		↓ 前向きに動き出す	新年度に間に合いリニューアル成功。当初の計画通りの運用に



富山総合情報センター  
代表取締役常務 見崎透氏(写真右)  
事業部 事業次長 西村仁志氏(左)

# ITコーディネータ活用記 支援機関編

## 〈富山総合情報センター〉 客観的な分析と助言で 基幹システムのリニューアルに成功

ITコーディネータの活動領域が広がり、市町村や県といった公共的な場所でそのスキルを発揮する動きが高まっているが、今回は公的機関の一つ、地域の支援機関での活用状況をレポートする。

ITの活用で経営革新を推進する経済産業省の地域イノベーションパートナーシップ(以前はIT経営応援隊)事業は各地域で独自の活動を展開しているが、富山県で実施される研修会などの事業を積極的に推進しているのが富山総合情報センターである。地元のITコーディネータ組織であるITC富山と密接な連携を保ち、地域企業のIT経営推進に尽力している。

富山総合情報センター(以下情報センター)は第三セクター方式による株式会社。所有するビルテナント・貸会議室運営やIT関連の研修を中心事業とする。同社が所有する情報ビル内には中小企業支援センター機能を有する財団法人富山県新世紀産業機構も入居しており、情報センターは中小企業支援のうちITに関わる分野を担当している。

普段はITコーディネータ(以下ITC)と連携し地域の企業に支援サービスを提供する側のだが、2010年の基幹システムリニューアルに際しては、「ITのユーザー」として県内のITCを活用する側の立場になった。

### 客観的な説明求め ITCを活用

事業部次長の西村仁志氏と相談し考案したのがITコーディネータの活用だった。西村氏は県内のITCをよく知っており、活用意義も理解している。

「これまでのITCとのお付き合いや地域の企業をサポートしていただいた実績を考え、最良の選択だと思いました。ベンダーさんの立場とも違い、第三者の目で見てもらえますから」と西村氏。早速、特定非営利活動法人ITC富山に話を持ちかけた。希望者が3名あり、その中から川上渉氏が選ばれた。

ITC川上氏は2009年9月からサポートを開始。情報センターに足を運び状況をヒアリングした。川上氏はその様子を次のように語る。

「手作業が間に合う伝票の流れを変えること、委託業務の処理で伝票を打ち直すような二重作業が発生していたのをストップすること、この2点が大きな変更点です。また職員の方から『一般企業ではどうしているのか』との質問もあり、スタンダー

### 会社紹介

株式会社富山総合情報センター  
富山県富山市高田 527  
設立: 1989年  
従業員数: 6名  
運営: 富山県、独立行政法人中小企業基盤整備機構、関係市、民間企業の参加による第三セクター方式による運営  
事業内容: テナント・貸会議室事業、研修事業、IT関連産業振興事業など  
URL: <http://www.toyama-tic.co.jp/>

### システムリニューアルが なかなか進まない…

情報センターでは、会社設立の1989年から同じ会計・給与のシステムを利用していた。一連の作業の中で、手書きの伝票で決裁を取り、その後システムに入力する手順があり、課題になっていた。同じ数値を二度処理するため手間がかかるし、伝票とデータが本当に一致しているかどうかの確認業務が担当者の負担になっていた。

代表取締役常務の見崎透氏は次のように説明する。  
「会計は不正や誤りの余地がないシステムにする必要があります。また、数年前には会社の経営が厳しくなることが予想されていたため、今から

### ITコーディネータ紹介



ITコーディネータ  
川上渉氏  
ITC富山 <http://itc-toyama.org/>  
有限会社 オフィスケイ

富山県で活動するITコーディネータ。やわらかい物腰が持ち味で、「皆さんの気持ちを盛り上げながら優しく進めていくのが得意」と言う。小回りの効く、スピーディーなサポートがモットーである。

富山総合情報センターの支援では、立候補した3名のITコーディネータの中から選ばれた。西村氏は「会計に詳しい方という条件を満たしており、今までの仕事を通じてどんな方かわかっていましたので、是非とお願いしました」と振り返る。

支援においては、自身も会社を経営し会計システムを利用している体験を踏まえてシステム導入のメリットを丁寧に説き、担当者の同意を得ることができた。

「複数のシステムを評価して決められたことも大変良かった。ITCに入ってもらったからこそできた」と見崎常務は評価している。

### 省力化しておきたいと考えました

そこで2008年に、翌年からの新システム移行を目指し準備を進めた。ITベンダーにも相談を持ちかけたという。

「ところが、頓挫してしまつたのです」と見崎常務は話す。

当時利用していたシステムはリースを更新した直後のためキャンセルが発生すること、そして何よりも、現場では今まで慣れ親しんだやり方をあえて変える必要性を感じなかつたことが理由だ。

見崎常務は2009年度の切り替えを断念。何とか翌年度にはと思ふものの、経営陣と現場の思いには距離がある。「強引に進めるのは良くない。やり方を変えよう」と決意した。

### 進められたことだった。川上氏は、

新しいシステムが入ると今より何が楽になるかを丁寧に説明した。客観的に見てシステムはどうあるべきかを伝えることによって、リニューアルする意義が徐々に理解され、前向きな動きになったのだ。

「社内だけでやっていたら、年度内導入の目標は達成できなかつたでしょう。強引に進めるのと第三者の立場で見てもらうのは違いますね」と見崎常務は目を細める。

基幹業務は省力化を実現し「オーパーワークの部分が無くなつてきつた」と(西村氏)という。数字の正確性も確保した。2010年度の決算時にはその威力がさらに発揮されるはずだ。



▲株式会社富山総合情報センターのホームページ  
<http://www.toyama-tic.co.jp/>